

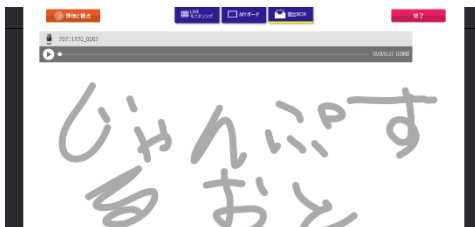
## ◇本時の目標

身の回りにある音を見付け、音に対する鋭敏な感覚を培う。

## ◇主に活用した ICT 機器・教材・コンテンツ等

## オクリンク

	学習活動	★ICT 活用場面
導入	1 目を閉じ、聞こえてくる音を感じ取る。 2 めあてを確認する。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             目のまわりからいろいろなおとを見つけよう。           </div>	
展開	3 音を見付け、録音する。 4 見付けた音を発表する。	★オクリンクを用い、児童同士で見付けた音を共有できるようにする。
まとめ	5 本時を振り返り、家庭学習に繋げる。	★家庭学習として日頃から音集めの活動に取り組むことができるようにする。



## ◇授業のポイント

児童の身の回りは、たくさんの音であふれている。身近なところから様々な情報（音）を収集することで、必要な情報を収集、整理、分析、表現する力が身に付くと考える。また、オクリンクに提出された友達の音を聴き合う事で、より幅広い視野で見ることができるようになる。

## ◇授業を振り返って

多くの児童が積極的に音集めの活動に取り組むことができた。「こんな音を見付けたよ。」「〇〇さんと同じ音を見付けた。」「この音はおもしろい。」等と、毎日違う音を見付けることができた。しかし、見付けた音以外の雑音が入ってしまったり、家庭学習で取り組む場合には家庭の状況によって取り組むことが難しい児童もいたりしたため、ワークシートと併用して行う必要がある。

## ◇本時の目標

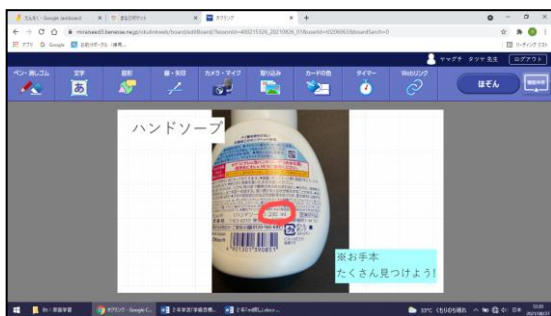
学習した水のかさの単位「mL」を見つけることができる。

## ◇主に活用した ICT 機器・教材・コンテンツ等

## オクリンク

	学習活動	★ICT 活用場面
導	1 お家の中にあるかさの単位「mL」を探す。	
展開	2 単位が見えるように写真を撮る。 3 オクリンクに物の名前と写真を添付する。	★事前に配布しておいたカードに記入する。
まとめ	4 先生に送る。	

## ◇授業のポイント



学習したかさの単位と身の回りのものを関連付けるための活動。mL や L の表示への関心を広げるために取り組ませた。

## ◇授業を振り返って

ペットボトルや虫よけスプレー、目薬などたくさんの種類を見付けることができていた。容器の大きさに比例する物もあれば、そうでない物もあることへの不思議な感覚を味わうことができた。

## ◇本時の目標

分数×分数の計算の仕方を理解し、その計算ができる。

## ◇主に活用した ICT 機器・教材・コンテンツ等

## ドリルパーク

	学習活動	★ICT 活用場面
導入	1 問題を把握する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           分数のかけ算をマスターしよう         </div>
展開	2 分数×分数の計算の仕方を考える。 3 計算の仕方を説明する。	
まとめ	4 教科書の練習問題に取り組む。	★家庭学習としてドリルパークを出題する。

3-1 分数のかけ算 1 見る 正答率 94.5% 配信選択	3-2 分数のかけ算 2 見る 正答率 96.1% 配信選択	3-3 分数のかけ算 3 見る 正答率 94.7% 配信選択	3秒 0% × × × × × × × ×
3-4 分数のかけ算 4 見る 正答率 97.6% 配信選択	3-5 分数のかけ算 5 見る 正答率 89.6% 配信選択	3-6 分数のかけ算 6 見る 正答率 89.2% 配信選択	5秒 100% ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
3-7 分数のかけ算 7 見る 正答率 91.7% 配信選択	3-8 分数のかけ算 8 見る 正答率 93.9% 配信選択	3-9 分数のかけ算 9 見る 正答率 92.2% 配信選択	1分 26秒 87% ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ×
			17秒 100% ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
			1分 57秒 75% × ○ ○ × ○ ○ ○ ○

## ◇授業のポイント

授業で教科書の練習問題を扱い、家庭学習として学習した範囲をドリルパークで出題した。家庭学習では児童が問題を解いてから教師が丸付けをするまでにタイムラグが生じてしまうため、ドリルパークを活用することで、児童が間違いにその場で気づき、修正することができる。

## ◇授業を振り返って

ドリルパークを活用することで、全体の正答率が把握できるため、児童の理解が進んでいない範囲を日々の指導に生かすことができた。また、解答時間やどの問題に正答しているかの個別のデータを見ることで、個別の指導に生かすことができ、次回以降の習熟度別のコース分けの際に参考になるデータを得ることができた。